

# 卓 球 協 会

## 沿 革

幕別の卓球の歴史は、昭和3年に大橋信二・藤田平治・笹原 登（当時幕別小学校）等の指導によって始まりました。昭和12年頃からは各大会にて上位入賞をするようになり、十勝大会においては団体優勝・個人優勝の実績があります。

昭和22年に幕別町卓球協会が結成され主将に長谷川清隆・副主将に若月寿治が就任しました。更に昭和26年には幕別町卓球クラブが結成され、会長に一宮龍熊・副会長に高島米蔵・笹原 登が就任しました。

その後は、新田ベニヤチームが活躍し実業団大会で35年から43年にかけて十勝大会で優勝、更に、38年には全道大会において準優勝をし全国大会出場の実績があります。現在の幕別町の卓球の歴史は新田ベニヤチームによって創られたと言っても過言ではありません。

卓球協会の現在に至る正式な設立は、昭和54年10月12日であります。初代会長として森田宣雄、副会長に藤平景夫・国安宏昌、事務局長に小野成義が選任されました。このころより駒井三郎（幕中事務職員）が「幕別町卓球スポーツ少年団」の育成に力を注ぎ、主力選手の竹村美佐代・駒井健一等により全道大会の制覇に続き全国大会にまで幕別町の名を知らしめました。更に駒井三郎は昭和60年に「札内卓球スポーツ少年団」（幕別クラブ）を結成し、小笠原龍弘・柏谷美紀・山田政美・遠藤宏美等を育てました。

昭和57年には二代目会長に片桐武夫が選任され、組織も50人を超える大所帯と発展し、小学生から一般まで幅広い層に渡り卓球人口が増えました。同時に札内地区にも卓球人口が増え始め、幕別町の広報紙に掲載された町民の卓球練習日「毎週火曜日は札内南小体育館」により、現在の卓球協会の役員となっている人々が集まりました。このことにより、「札内卓球同好会」が発足し会長に高橋精一・副会長に佐藤 健・佐藤 昇が選任されました。

平成元年12月には、札内スポーツセンターが建設され、卓球協会主催による「卓球教室」が駒井三郎・青柳照夫・村上道隆・大澤浩義等によって行われました。このスポーツセンターにより卓球愛好者が更に増え、高橋精一・高橋 章等が昼間の同好会として「コスモス卓球同好会」を設立し、平成9年4月現在で44名を数えております。

平成5年度の総会において、青柳照夫が三代目の会長に選任され、このころの全十勝道民スポーツ大会の卓球では「幕別町」は「帯広市」に次ぐ準優勝チームであり、常に帯広市が宿敵でありました。この全町挙げての「道民スポーツ大会」は、後述しますが平成7年には、何処の町村も敗った事のない過去連続26回優勝の帯広市を破り念願の優勝を青柳恵子・松田祥子・山田政美・青柳照夫・福井邦秋・寺岡勝美・水谷敬紀・植松伸晃・大西 誠等が実現させました。

このころより、帯広市（全道）に拠を構える熱原グループが選手を育成していた為、札内居住で同チームの十勝の上位選手が数多く活躍し、一般の戦力向上になった事も否めません。

平成9年10月現在の協会加盟会員は52名となっており、将来益々増加の傾向にあると思われま

す。

## 現 況

### 近年の主な事業

1. 1月開催 札内卓球同好会主催・卓球協会後援の「新春ダブルス大会」  
参加資格は一般のみ 夜開催
2. 6月開催 「会長杯大会」  
参加資格は、小・中・高・一般・壮年 午前9時より
3. 8月開催 (有)竹葉観光主催・卓球協会後援の「竹葉杯」  
参加資格は、小・中・高・一般・壮年 午後4時より
4. 10月開催 「全町大会」  
参加資格は、小・中・高・一般・壮年 午前9時より
5. 12月開催 「納会（忘年）ダブルス大会」  
参加資格は協会会員のみ 夜開催

### 第5回会長杯・大会成績 平成9年7月6日 札内スポーツセンター 参加人数 149名

ブロック	性別	優 勝	準優勝	三 位	
小学校低学年	男 子	吉根 雄介	小川 和哉	石野 雄介	小川 祐樹
	女 子	渡辺あゆみ	神谷ひとみ	渡辺 広子	上野 友見
小学校高学年	男 子	吉根 恵介	高山 信	伊藤 和哉	小林 拓徳
	女 子	金田 法子	菊地 裕美	上野 希華	丹崎 茜
中 学 生	男 子	本田 勇輔	久保 泰法	詫間 篤	久住 安則
	女 子	森脇亜子仁	菊地 芳美	佐藤 玲奈	土井 悠希
一 般 の 部	男 子	青柳 照夫	大澤 浩義	村上 道隆	仲上 雄治
	女 子	青柳 恵子	中屋敷 綾	松田 祥子	
壮 年 の 部	女 子	高橋 直子	奥井 勝代		
一 般 の 部 ダブルス		吉根 恵介 仲上 雄治	詫間 雅博 大澤 浩義	青柳 照夫 久保田宗幸	村上 道隆 松田 祥子

### 第33回全町卓球大会成績 平成9年10月12日 農業者トレセン 参加人数107名

ブロック	性別	優 勝	準優勝	三 位	
小学校低学年	男 子	吉根 雄介	小川 和哉	中野 達也	神谷 浩平
	女 子	渡辺あゆみ	上野 友見	西村 彩	深松 春香
小学校高学年	男 子	千葉 正訓	工藤 亮	嶋谷 太一	
	女 子	丹崎 茜	上野 希華	片山 瞳	北田麻奈美
中 学 生	男 子	久住 安則	吉根 恵介	詫間 篤	千葉 弘喜
	女 子	土井 悠希	仲上 綾	森 由香里	大松澤綾子
高校一般の部	男・女	大西 誠	仲上 雄治	坂本 恵治	渡辺 勲
壮 年 の 部	女 子	高橋 直子	奥井 勝代		
一 般 の 部 ダブルス		佐藤 昇 渡辺 勲	田井 啓一 仲上 雄治	青柳 照夫 高橋 直子	大西 誠 青柳 恵子

近年の主な事業は、上記の五大会であります。毎年参加人数が増加傾向にあり、特に幕別中学校は平成9年度全十勝中体連大会において男女アベック優勝を成し遂げ、共に人数も多く層の厚い学校であります。女子顧問は山田晴幸（現：大空中学）であり優秀なカットマンを幾人も創り挙げました。また男子顧問は長江教貴（現在は男女両顧問）であり、生徒に対しての指導は規律・マナー共に十勝一と言える程の素晴らしい定評があります。代表選手には、森脇亜子仁・土井悠希・詫間 篤・久保泰法・久住安則等がいます。

また同時に、札内東中にも優秀な選手が揃っており、十勝大会においては男女共に団体から個人の部において決勝戦は常に幕中と東中の決戦となっています。東中は齊藤貴史顧問の元に代表選手として、谷浴裕紀・青柳雅直・本田勇輔・谷浴雅志・久保田宗幸・菊地芳美・佐藤玲奈・金田美智子等がいます。

更に少年団としては、神谷浩一監督の「幕別卓球スポーツ少年団」・高橋精一と片岡真伸が指導する「札内南小卓球スポーツ少年団」・小笠原均監督の「幕別クラブ」・吉根三男会長の「幕別TTC」の4団体があります。特に幕別クラブは駒井三郎から小笠原均の二人の監督を経て、昭和62年から今年に至るまで、全国および北日本大会出場回数は7回を数えます。

卓球協会としての大会参加は、年三回開かれる「十勝親睦卓球大会」と「道民スポーツ」であります。が、「十勝親睦卓球大会」に於ては多い時には二チームを出場させ、常にAクラスを保っている。

「道民スポーツ」に於ては、前記した通り平成7年には念願の初優勝を遂げ、平成8年には惜しくも準優勝、そして平成9年には佐藤 昇・村上道隆・田井啓一・仲上雄治・渡辺 勲・山田靖子・遠藤宏美等が見事二度目の優勝を飾っております。

また、平成8年8月には青森県東北町に於て青森県の代表選手と幕別町との間で交流試合も行われております。

### 幕別町卓球協会役員名簿推移

任 期	会 長	副会長	事務局長	理 事・会 計
昭和54年 ～ 昭和56年	森田 宣雄	国安 宏昌 藤平 景夫	小野 成義 次長 仲上 雄治	
昭和57年 ～ 平成4年	片桐 武夫	小野 成義 山口 俊男 宗岡 寿一 高橋 雄一 (58年当時)	駒井 三郎 次長 仲上 雄治 菅野 勇次 村上 道隆	沖田 信昭 伏屋 英徳 鎌田 幸雄 詫間 雅博 丸山 雅美 田井 啓一 越田 覚 青柳 照夫 中山ナミエ 宮川 栄一 尾崎えみ子
平成5年 ～	青柳 照夫	佐藤 健 佐藤 昇 監事 仲上 雄治 大澤 浩義 塚本 明	寺岡 勝美 次長 田井 啓一 渡辺 勲 楠 美智子	武田 博 片山省太郎 鎌田 幸雄 杉山 雪男 福井 邦秋 小笠原 均 詫間 雅博 村上 道隆 青柳 恵子 会 計 松田 祥子





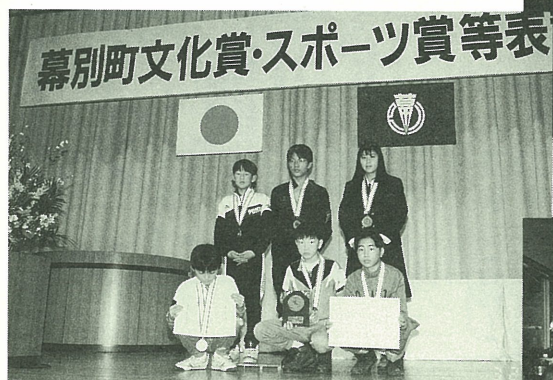
全町大会試合途中風景



平成8年度道民スポーツ準優勝



平成7年度 道民スポーツ優勝



平成2年度 スポーツ奨励賞授与



各大会の役員によるトーナメント表作成  
(常に会長宅)